

# 論壇

## 低所得者に価格の恩恵

TPP（環太平洋連携協定）が大筋合意となり、世の中の関心は次の段階に向かいつつある。すでに、TPPに賛成か反対かの議論ではなく、TPPを日本の経済をよくするためにどのように活用したらよいかという議論に移りつつある。

農業品については、TPPにより農業者が被害を受けるといふ議論ばかりが突出していた。しかし、海外から安い価格の食料が入ってくることは、悪いことばかりではない。海外で生活した人は感じたこと

東大教授(国際経済学) 伊藤 元重

## TPPのメリット

があるだろうが、日本は主要国の中で突出して食料品の価格が高い。コメや肉や乳製品などが特に高い。これは所得の低い人には厳しいことだ。同じような低所得の人でも海外の方がずっと安く食費を抑えることができるのだ。先日、バター好きの友人が言った

「店などは安く食事を済ませることができるところとして多くの人に重宝されているが、あの低価格は輸入食材を抜きに実現することは不可能だ。いくら安い価格の食料が輸入できても、日本の農業が駄目になったら元も子もないという人もいらず、海外からの輸入を厳しく制限する。しかし、輸入制限で農業保護

を続けていたとしても、日本の農業が元気になるわけではない。それよりも、TPPをきつかけにして、弱い農業を守るといふよりは、強い農業を育てるといふ方向に転換していく必要がある。

## 攻めの農業へ転換好機

だいぶ前のことだが、米国のチエリーを輸入自由化するので、日本のサクランボ農家は駄目になると言われた。しかし、現実はそのようならなかった。山形のサクランボ農家は、佐藤錦という品種を育てる努力をした。その結果、チエリーとサクランボはまったく違ったものとなったのだ。高価格で売れるサクランボの農家の売り上げは伸びた。少し前に山形で次のような話を

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。